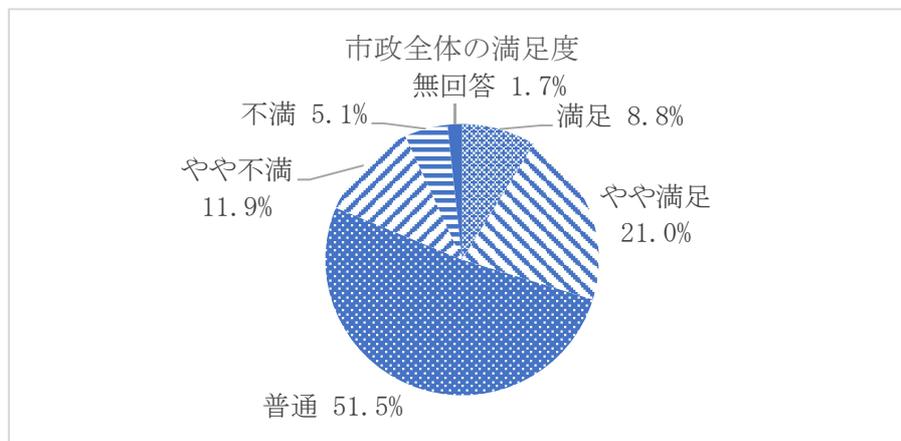


まちづくり市民アンケートの結果について（概要）

1 伊那市の市政について

現在の伊那市の市政全般の満足度をたずねたところ、「満足」(8.8%)と「やや満足」(21.0%)を合わせた人は29.8%となっています。一方、「不満」(5.1%)と「やや不満」(11.9%)の合計は17.0%で、“満足している”人の割合を下回っています。



2 各施策の評価について

(1) 現状の満足度

総合計画の施策体系に基づき、各施策の状況を「満足度」として全48項目についてたずねたところ、“満足度”の獲得点数は、「自然」が1,114点で最も高く、以下「環境衛生（ごみ、リサイクル）」(706点)、「子ども・子育て」(508点)、「医療」(367点)、「上下水道」(317点)が上位となっています。

年代ごとの特徴としては、10代は「学校教育」、20代は「防犯・平和」、30代は「保育」、40代は「移住・定住・交流」、50代は「医療」、60代は「地域環境」、70代は「健康」、80代は「高齢者福祉」の満足度が他の世代と比べ高いことがあげられ、自身に身近な施策に対する満足度が高い傾向にあります。

【現状の満足度】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	医療	学校教育
年代別	10代	自然	学校教育	景観形成	子ども・子育て	住宅・住環境
	20代	自然	防犯・平和	景観形成	観光	地域自治・コミュニティ
	30代	自然	子ども・子育て	保育	医療	環境衛生 (ごみ、リサイクル)
	40代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	学校教育	移住・定住・交流
	50代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	医療	移住・定住・交流
	60代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	地域環境	健康
	70代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	健康	地域自治・コミュニティ	高齢者福祉
80代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	地域環境	高齢者福祉	上下水道	

(2) 今後の重要性

総合計画の施策体系に基づき、満足度と同様に各施策の今後の「重要性」についてたずねたところ、「重要性」の獲得点数は、「子ども・子育て」が1,115点で最も高く、以下「高齢者福祉」(811点)、「医療」(549点)、「就労・雇用」(512点)、「農業」(392点)が上位となっています。

年代ごとの特徴としては、10代は、「学校教育」、20～40代は、「子ども・子育て」、50～80代は、「高齢者福祉」の重要性が最も高く、各世代とも身近な課題を優先する傾向にあり、世代によって優先度の分布に特徴がみられますが、「子ども・子育て」は、全世代において重要性が2位以上となっており、優先度の高い項目となっています。

20～50代の勤労世代では、「就労・雇用」が上位にランクインしており優先度が高い傾向にあります。また、多くの年代において、「医療」の重要性が高くなっています。

【今後の重要性】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		子ども・子育て	高齢者福祉	医療	就労・雇用	農業
年代別	10代	学校教育	子ども・子育て	高齢者福祉	公共交通	自然
	20代	子ども・子育て	就労・雇用	保育	医療	財政基盤
	30代	子ども・子育て	保育	学校教育	就労・雇用	高齢者福祉
	40代	子ども・子育て	高齢者福祉	医療	就労・雇用	学校教育
	50代	高齢者福祉	子ども・子育て	就労・雇用	医療	環境衛生 (ごみ、リサイクル)
	60代	高齢者福祉	子ども・子育て	医療	農業	就労・雇用
	70代	高齢者福祉	子ども・子育て	農業	医療	公共交通
	80代	高齢者福祉	医療	財政基盤	就労・雇用	企業誘致・企業留置

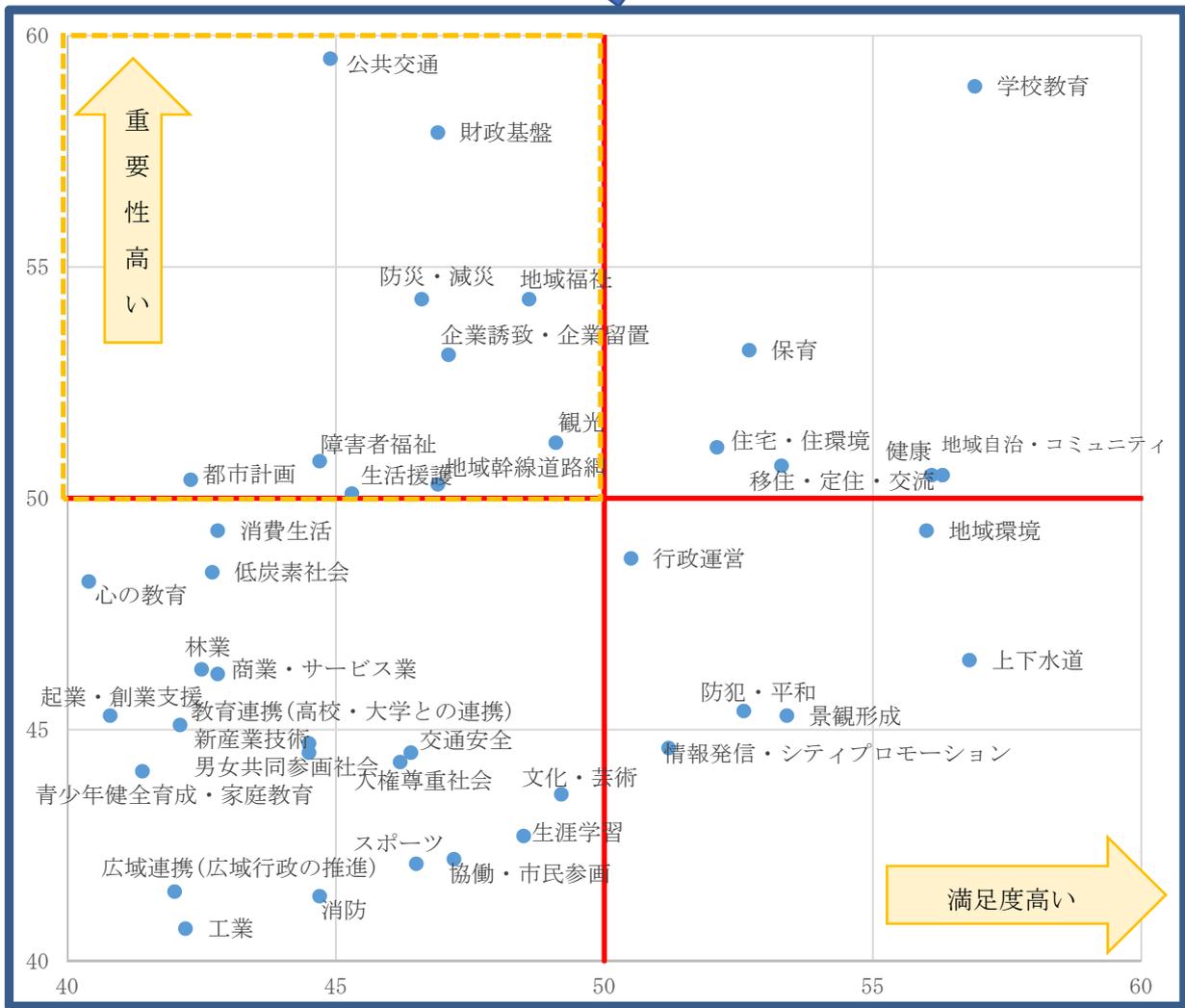
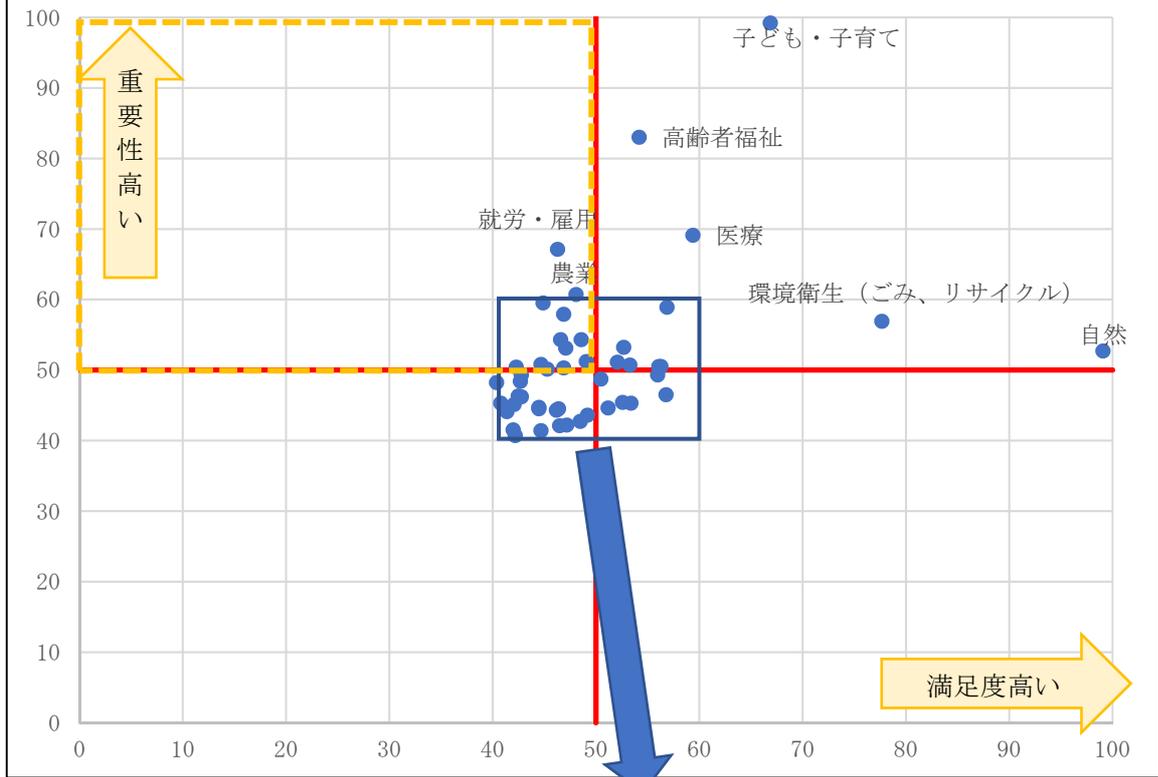
3 分布図による分析

各施策の満足度、重要性の各点数を偏差値に換算し、満足度と重要性をそれぞれ横軸、縦軸に設定し、分布図を作成しました。また、グラフ上の偏差値50の位置にラインを引くと、4つのエリアに分類されます。ここでは「満足度が低く、重要性が高い」施策(満足度の偏差値50未満かつ重要性の偏差値50以上)を「優先度が高い項目」と定義します。

【重要性が高く、満足度が低い施策(満足度の偏差値50未満かつ重要性の偏差値50以上)】

- ◆就労・雇用 ◆農業 ◆公共交通 ◆財政基盤 ◆防災・減災
- ◆地域福祉 ◆企業誘致・企業留置 ◆観光 ◆障害者福祉
- ◆地域幹線道路網 ◆都市計画 ◆生活援護

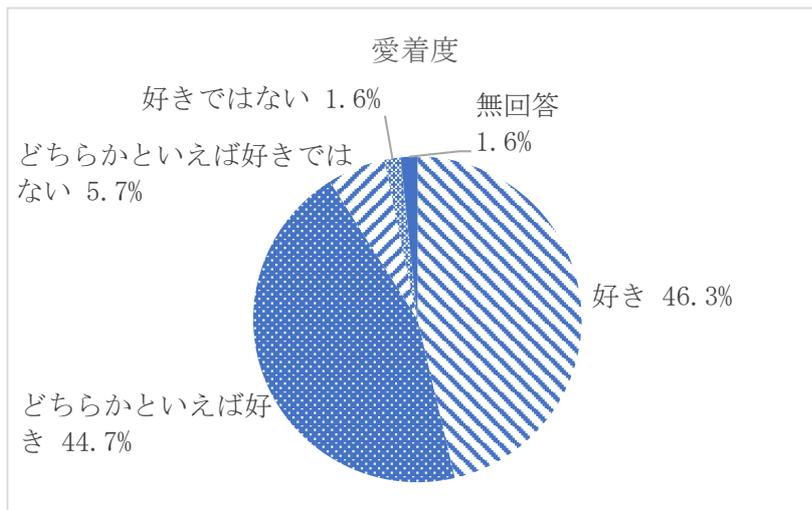
満足度と重要性の分布



4 中学生アンケート

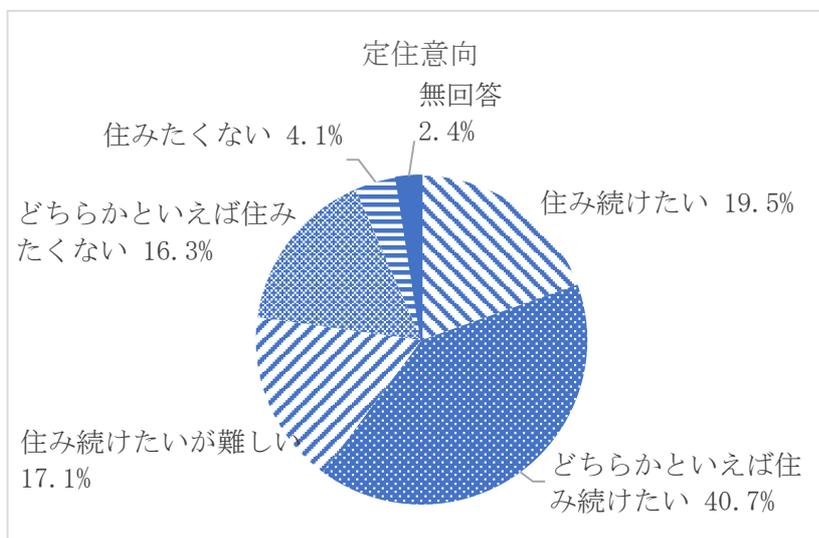
(1) 愛着度について

伊那市の愛着度をたずねたところ、「好き」(46.3%)と「どちらかといえば好き」(44.7%)を合わせた“愛着度の高さ”は91.0%となっています。一方、「どちらかといえば好きではない」(5.7%)と「好きではない」(1.6%)の合計は7.3%で、“愛着がある”割合を大きく下回っています。



(2) 定住意向について

今後の定住意向をたずねたところ、「住み続けたい」(19.5%)と「どちらかといえば住み続けたい」(40.7%)を合わせた“定住希望がある”人は60.2%となっています。一方、「住みたくない」(4.1%)と「どちらかといえば住みたくない」(16.3%)の合計は20.4%で、“定住希望がある”割合を下回っています。



(3) 今後のまちづくりの方向性について

将来のまちづくりの目指すべき方向性についてたずねたところ、「環境にやさしく山や川など美しい自然が守られているまち」(22.4%)、「犯罪がなく、災害に強い安全なまち」(11.4%)、の2項目へ関心が集中しています。

中学生にとって身近な課題であることが影響し、「自然環境の保全」と「防災・安全」に回答が集中したと推察されます。また、「多様性を認め合い、だれもがいきいきと暮らせるまち」が上位となり、時代を反映した結果となっています。

